

## 《公開用感染制御相談事例集(Q&A)》

相談事例No. 35

区分 感染症別の対策(インフルエンザ)

### 【質問】

2カ月前にインフルエンザと診断され、その症状が消失した後も迅速検査で陽性が続いている患者を受け入れることになりました。微熱程度の発熱と解熱を繰り返しており、喀痰吸引を必要とする患者であることから、インフルエンザ対策として、①個室管理、②病室の外に出るときの患者のマスク装着と手指衛生の徹底、③対応する医療従事者のマスク装着と手指衛生の徹底を続けなければならないでしょうか？また、再検査で陰性化の確認は必要でしょうか？

### 【回答】

免疫能低下状態の患者などでは、インフルエンザが遷延することも多くあります。ご質問の患者について、微熱程度の発熱と検査が陰性化しないという情報だけから、インフルエンザであるかどうかを判断することは困難ですので、より詳しく微熱の原因を評価していくことが必要です。

インフルエンザ対策では、標準予防策に飛沫予防対策を追加しますが、患者ごとに手指消毒を行うことや、喀痰吸引などの処置時に手指消毒および个人防护具の装着を遵守することなどは、標準予防策として、感染症の有無に関わらず行うべきものです。

そこで、微熱の原因がインフルエンザであると判断されれば、通常のインフルエンザ対策を継続しますが、その可能性がないと判断され、呼吸器症状の消失後1カ月間以上が経過していれば、次のように対応してはいかがでしょうか。

- ① 多病床での管理も可能とします。
- ② 患者には、可能であれば手指消毒も指導します。
- ③ 対応する医療従事者には、標準予防策として手指消毒および必要に応じてその他の個人防護具の装着を徹底します。

また、治療効果の判定や隔離解除の判断目的のために再検査は不要と考えます。

貴施設の設備や環境などの現状も加味して、検討していただくようお願いします。